

# ベストピア Bestopia

辻・本郷税理士法人  
小田原支部  
小原靖夫  
〒250-0011  
神奈川県小田原市栄町 1-8-1  
TEL 0465(30)2100  
FAX 0465(30)2101

平成二十二年十一月  
第二八五号

## きよしこの夜物語

### 1. 現在の歌詞

この讃美歌ほど世界で一番有名で親しまれているものはありません。

この讃美歌ほど世界で親しまれ愛されているものはありません。

どのように商業用の宣伝に用いられても汚れることも飽きられることのない強い美しさをもっています。その強さの秘密、この讃美歌の誕生の経緯についてまとめました。

まず、現在の歌詞を掲げます。[讃美歌 21-264]

- (1) きよしこの夜、星はひかり、  
救いのみ子は、まぶねのなかに、  
ねむりたもう、やすらかに
- (2) きよしこの夜、み告げうけし、  
ひつじかいらは、み子の御前に、  
ぬかずきぬ、かしこみて。
- (3) きよしこの夜、み子の笑みに、  
あたらしき代の、あしたのひかり  
かがやけり、ほがらかに。

### 2. 美しい伝説を紹介しましょう。

「あるクリスマスの、お話」

オーストリアという国の小さな村オーベルンドルフであったこと。

野原にも、川にも、家の屋根にも、林にも、静かに雪が降り始めると、夏中、山で、

羊を飼っていて羊飼いたちが、つぎつぎに、村に帰ってきます。「もうじきクリスマスだねえ」と、言い合う人々の顔はもう嬉しさでいっぱい。村の教会のヨーゼフモーア神父さんは、子供たちを集めてクリスマスの歌のおけいこ。神父さんは歌が好き、ちょぴり いたずらも好き。そして村の人たちは神父さんが好きでした。なかには、やれやれ、子供には、もう少し厳しくしなきゃなあという人もいましたけど。

「さあ、もう一度、ひくーい声ではじめようね」こういって、神父さんはオルガンに手をおきました。「あれっ？変な音だな。」がたっ がたっ がたっ ドレミ・・・がたっ、ファソがたがたっ・・・。「へんだ へんだな・・・。」神父さんは、立ち上がり、オルガンの後ろにまわって、ふたをあけます。う あっ たいへん 一匹、二匹、三匹、四匹・・・風のように飛び出すネズミ、つづいて、猫まで飛び出した。かわいそうな神父さん オルガンのパイプは、ネズミにかじられて あーあ、これじゃ、音がでないな。「さあて、どうしようかね。」と神父さんが、ふりかえったら、そこにはもうだれもいません。ネズミがにげて、猫がにげて、子供たちまで逃げてしまった。クリスマスの歌どころではありません。

モーア神父さんは、しばらく しょんぼりお祈りをしていました。そのとき

「あっ」フランツがいるじゃないかと、モーア神父さんの頭にひらめいたのは、村の学校で先生をしている友達フランツ・グルーバーさんのこと。フランツはギターも弾けるし、作曲もじょうずだし・・・

夕方になって、マントにくるまった神父

さんが、ちらちらと降り続く雪の中を、学校のほうに歩いていきます。

グルーバー先生は、ランプのそばで、一生懸命、生徒の宿題を見ていました。

神父さんは、入ってきてネズミのこと、こわれたオルガンの話をしました。

「だけど、クリスマスの夜には、どうしても歌があるんだよ。オルガンがなくても歌えるような、やさしい、きれいな歌……」

「僕は、歌の言葉を書いてきた。きみのギターでメロディをつけてくれないか。」

モーア神父さんが帰った後グルーバー先生は、すぐギターをかかえました。羊飼いの笛のようにきれいで、優しい歌にしたいと考えながら。外では雪までもが、じっと聴いているよう……

いよいよクリスマスの夜がきました。村の人たちで教会は満員です。たくさんのローソクが、あかあかとともって祭壇ではキリストさまの誕生を祝うミサがはじまり、聖書が読まれています。

……突然、たくさんの天使たちが、神さまを讃美して歌い始めました。……

ちょうどそのとき、モーア神父さんとグルーバー先生は歌いだしたのです。ギターに合わせて優しく、静かに……

村にはまた春がやってきました。溶け始めた雪の間からは、やわらかい緑の芽が顔をだします。モーア神父さんは教会のすみっこでオルガンを修理しながら独り言。

「一度でいいから、これであの曲を弾きたいな。」

でも、モーア神父さんのこの願いはかなえられませんでした。神父さんは、急に遠い町の教会に引っ越すことになったからです。モーア神父さんがいってしまってから5年の後、オルガンを上手に直すマウラッハーという人が村にやってきました。長いこと壊れていたオルガンの中には色々なご

みやがらくたが詰まっていた。そこに黄色くなって破れかかった1枚の楽譜もあったのです。この楽譜でマウラッハーさんは直したオルガンの調子を試しました。なんども繰り返して弾きました。「……素晴らしい すばらしい ぜひ、おぼえなくちゃ。」楽譜の題は、聖この夜と書いてありました。

あの日から、この歌はオーストリアの国中に伝わただけではありません。オーストリアは美しくてビールのおいしい国。いろんな国からいろんな人が、遊びにきて、すぐにこの歌を覚えました。……すてきな歌だ と みんな言いました。「きっと、有名な人が作ったんだよ」とある人たちは言いました。でも、本当に誰が作ったかは長いこと忘れられていたのです。けれど、ある日、この歌ができて30年以上もたってから、熱心な人たちがすっかり年をとったグルーバー先生を見つけ出したのです。

グルーバー先生の音楽のノートにはこの歌の言葉はモーア神父さんが作ったと書いてありました。モーア神父さんはずっと前に死んでいました。グルーバー先生は76歳まで生きました。二人ともこの歌が世界中でこんなに歌われるようになるとはぜんぜん思わなかったでしょう。遠い日本の国でもみんな知ってる歌になるなんて。

[引用 ジーノカビオリ絵 リーノランジオ作 わきたあきこ文 女子パウロ会刊]

### 3. 作詞者、作曲者と世界への広がり

この歌が最初に歌われたのは、1818年12月24日でした。それから36年間この歌は作者不詳となっていました(ハイドンの作曲ということも言われていたようです)。

本当の作詞者はヨーゼフ・モーアー(1782-1848)が1816年に書き上げていたもの

を作曲者フランツ・クルーバー（1787－1863）がメロディーをつけたのです。

1819年

フューゲンという町でライナー・ファミリーが歌っていたとのこと（このライナー・ファミリーは、1839年にアメリカに演奏旅行に出かけ、ニューヨーク・ウオール街 トリニティ教会墓地のアレクサンダー・ハミルトン記念碑の前で歌っている）。

1821年

オルガン製造修理人のマウラッハーがオーベルンドルフのこの教会聖ニコラ教会に修理にやってきて、楽譜を発見し（作曲者のグルーバーが渡した）、チロルへ持ち帰った。チロルのシュトラッサー・ファミリーが見本市で客寄せに歌って広めたので、この歌はチロル民謡と言われるようになった（シュトラッサー・ファミリーは手袋職人で冬になるとライブチッヒなどの都会に出て販売活動をしていた。ライナー・ファミリーはオーストリア皇帝フランツ1世とロシア皇帝アレクサンダーの前で歌っている）。

1831年

権威あるフリーゼ出版社が忠実に楽譜に起こし普及が加速化した。

1840年代

ベルリン国立大聖堂合唱団が歌い、一般大衆に広めたばかりでなく芸術に理解のあるプロイセン王フリードリヒ・ウィルヘルムがこの聖歌をととても気にいり、毎年クリスマスに国立大聖堂合唱団に歌わせれるほどだった。

1854年

この作者不詳の歌の作者が誰であるかの

調査命令がプロイセン王立宮廷楽団からザルツブルグの聖ペーター・ベネディクト会修道院合唱監督に出された。この時グルーバー（作曲者）の息子フェリックスがその合唱団で歌っていた。

1856年

69歳になっていたグルーバー本人が手紙を書いて真実が明らかになった。作詞はヨーゼフ・モーアーであること。作詞者はその詩にふさわしいメロディーを、二声のソロパートとコーラス、ギター伴奏で書いて欲しいと願い出たのは、1818年12月24日のことであった。作詞者のモーアーは既に8年前に招天していた（1848年12月4日没）。

1858年

英国でも翻訳される。最初の英語版は1849年アメリカのメソジスト讚美歌にのっている。

1863年

日本では「日曜学校礼拝書と楽譜」に掲載されている。

1891年

スエーデン、ノルウェー、インド、アメリカ、ニュージーランドで伝道者によって広められている。

その後も作詞者については謎があると言う人たちによって更なる追求がなされた。これはヨーゼフ・モーアーの顔がどこからも浮かんでこなかったからである。作曲者グルーバーには肖像画があったが極貧で育ち謙虚であったヨーゼフ・モーアーには肖像画がなく、そのことが謎を深めていったと考えられる。それが解決したのは1995年、ヨーゼフ・モーアーの自筆の原稿が発見

されたことによってである。1912年には埋葬場所が苦労の末に突き止められ、亡骸が発掘され、風貌が推定されて胸像が作られた（ヨーゼフ・モーアーの姿を描いた絵は残っていなかったため、彫刻家は発掘されたしゃれこうべを参考に制作した。現在はオーベルンドルフの記念礼拝堂に埋葬されている）。

#### 4. 原作詩歌と時代背景

原作は6節からなっています。それが何故3節になったのでしょうか？

まず、全文を引用します。

- (1) 静かなる夜、聖なる夜。  
みなは眠り、目覚めているのは、  
睦まじき聖なる二人だけ。  
巻き毛の愛くるしい幼子が、  
天の静けさにつつまれて眠る、  
天の静けさにつつまれて眠る。
- (2) 静かなる夜、聖なる夜。  
神の御子の、ああ、その微笑みは、  
神々しい口元が愛らしく  
救いのときがきたと告げる。  
汝の誕生により、汝の誕生により。
- (3) 静かなる夜、聖なる夜。  
今宵、この世に平安がもたらされた、  
金のように輝く天の高きところより、  
全能の神はあふれるほどの  
慈悲を示された、  
イエスが人の姿となって、  
イエスが人の姿となって。
- (4) 静かなる夜、聖なる夜。  
今日、全能の神は、慈悲の愛を注ぎ、  
イエスは兄弟として慈悲深く、  
世界の民をつつみこむ、  
世界の民をつつみこむ。

- (5) 静かなる夜、聖なる夜。  
久しく我らは望み続けた、  
憤怒より我らを救いたまえ。  
遠い昔、我らの父祖の時代から神は、  
すべての民に思いやりの心を約束した、  
すべての民に思いやりの約束をした。
- (6) 静かなる夜、聖なる夜。  
天使は神を称え、  
喜びは初めに羊飼いにづけられた、  
そちこちで歌声が響く、  
救い主が生まれた、救い主が生まれた。

[ヴェルナー・トウスヴァルトナー著  
大塚仁子訳 アルファベータ社刊

2005.12.25]

次号に続く